

みどりとともに

第40号

2020年8月1日

一般社団法人 茨城県治山林道協会

水戸市三の丸1丁目3番2号

林業会館3階



❖❖❖❖ も く じ ❖❖❖❖

令和元年東日本台風(台風第19号)における治山・林道施設の被害について	2~3
SDGs未来都市つくば~持続可能なまちづくりに向けて~	4
海岸砂地造林用の苗木について	5
協会だより	6~7
1. 令和2年度定時総会の開催	
2. 令和元年度茨城県民有林治山・林道関係コンクールの表彰	
◎第42回民有林林道維持管理コンクール	
協会の主な動き	8
◎令和2年度山地災害防止標語及び写真コンクールの作品募集について	



令和元年東日本台風（台風第19号）における 治山・林道施設の被害について

茨城県県北農林事務所林務部門
森林土木課

はじめに

令和元年10月12日から13日にかけて東日本に襲来した台風第19号に伴う大雨によって、広範囲にわたり甚大な被害にみまわれました。

管内の主な観測地点の24時間降水量は、北茨城市華川町花園で456.5mm、常陸太田市徳田町で334mm、久慈郡大子町大子で269.5mmといずれの観測地点でも観測史上最大となる降雨量があり、1時間の最大降水量は、花園で56.5mm（12日/21時）を観測しました。

台風による被害は、道路、河川、農地、山地に至る所で発生し、激甚災害にも指定され、国を挙げて災害の復興に力を入れています。

本県の山地や林道についても県内各地で被害が確認されました。

後に、この台風19号は、「令和元年東日本台風」と名付けられ、被害の甚大さ深刻さを後世に残すこととなりました。

山地災害関係

山地災害としては、林地の崩壊が多く見受けられましたが、先人たちが整備した治山施設への被害は無く、土石流の軽減や山腹崩壊の予防に役立っていました。



写真1 林地の崩壊状況
(常陸太田市上高倉町地内)

林地の崩壊は、植栽して4年から6年が経過した再造林地（写真1）の山腹が崩壊する傾向が多く見られました。また、被害の特徴としては、皆伐した時に残した丸太や搬出するための作業路の補強材として利用した丸太（以下「林地残材」という。）が土石と共に下流へ流れ出して、被害を拡大させる事例が多く見受けられました。



写真2 治山ダムによる流木の捕捉状況
(大子町頃藤地内)

近年、この林地残材や倒木による流木の被害を軽減するための治山施設として、流木対策用の治山ダム（写真2）が設けられており、令和元年東日本台風の時にも、土石流による減災に効力を発揮しました。

また、溪流内に生育している立木が流木を捕捉し、減災に役立った事例（写真3）もありました。

このようなことから、間伐時や皆伐時に林地残材の発生を極力抑えるようにすれば、土石流による被害を軽減出来るのではと感じています。



写真3 立木が流木を捕捉している状況
(常陸太田市上高倉町地内)

林道施設災害関係

林道施設災害としては、路肩の崩壊(写真4)や法面の崩壊(写真5)、路面の侵食、流木や枝条等と土砂が混ざり、暗渠を閉塞するなどの被害が多く見受けられました。管内の市町では、北茨城市、高萩市、常陸太田市、常陸大宮市及び大子町の5市町で林道施設災害が発生し、令和2年1月に災害査定を受け、復旧に向けて努力しているところです。



写真4 路肩の崩壊状況
(林道：大能・米平線)



写真5 法面の崩壊状況
(林道：道口神線)

この中でも、林道の路線数が多い大子町では、河川の氾濫により庁舎が浸水被害を受けたことに加え、町内の至る所で住宅の浸水被害等が発生したことにより、住宅被害、道路被害、林道被害と多数の災害対応にあたることになったため、県に支援要請があり、これを受けて当事務所では、林務部門一丸となって林道路線の現地調査を実施しました。

おわりに

今回の令和元年東日本台風では、今までに経験したことのない雨量が観測され、県内の至るところに被害をもたらしました。地球温暖化による異常気象により、今後もまた、同じような規模の台風が襲来することが予想されます。

今回の災害に対する復旧工事は、まだ、道半ばではございますが、森林土木課としましては、今後とも森林の保全に努め、県民の生命と財産を守るため、災害に負けない強靱な県土づくりを目指して邁進しようと考えております。



町から
村から

SDGs未来都市つくば ～持続可能なまちづくりに向けて～

つくば市持続可能都市戦略室

つくば市は、茨城県の南西部、首都東京から北東に約50kmの距離に位置します。北に名峰筑波山をはじめとする恵み豊かな自然、100を超える研究機関によって成り立つ筑波研究学園都市に集積した最先端の科学技術、世界に開かれた多様性など、先人たちの努力により守られ、創られた資産があります。

つくばエクスプレス(TX)が2005年に開業してからは、沿線開発を中心とした新たなまちづくりが加速し、人口増加が続いています。

成長を続ける一方で、こどもの貧困や中心市街地の賑わい低下、周辺地域の人口減少や高齢化などの課題も山積しています。

SDGsは、国連が提唱した図の17のゴールで、Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)の略称です。2016年から15年間の世界全体の目標であり、日本においても、地域からの取組が求められています。



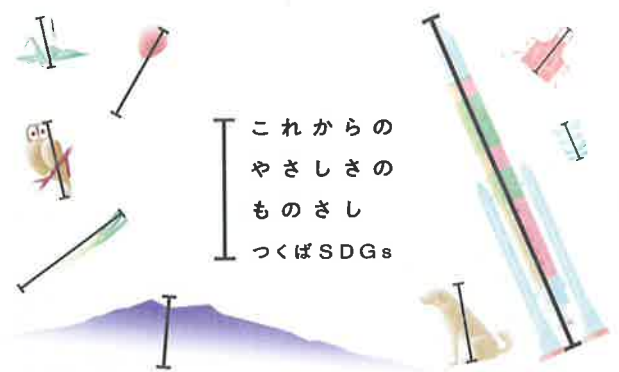
SDGs 17のゴール

この目標年である2030年以降には、つくば市の生産年齢人口が減少に転じる見込みもあり、労働力の低下や税収減も懸念されています。

これらの課題に向き合い、2030年のあるべき姿として持続可能な都市の実現を目指すため、2017年

から「誰一人取り残さない」を合言葉にSDGsに取り組んできました。その取り組みなどが認められ、2018年6月には、国から「SDGs未来都市」に選定されました。

2020年3月には、持続可能都市宣言を実施すると共に、つくば市の未来の都市像を描く最上位計画である「つくば市未来構想」を、SDGsの理念を反映し、改定しました。今後、未来構想・その下の戦略プランに沿って具体的な事業を進めることで、持続可能なまちづくりの実現を本格的に目指していくこととなります。



やさしさのものさし

具体的な事業の例として、地域の社会課題を自ら解決することを目的に設立しました「つくばSDGsパートナーズ」の取り組みや、周辺市街地活性化のための「R8コンペティション」、科学技術を街に実装する「Society5.0社会実装トライアル支援事業」などを実施しています。

また、SDGsをより身近に感じてもらうための表現として、暮らしの中のものの見方を変えろという意味で「つくばSDGs やさしさのものさし」を提唱しています。



海岸砂地造林用の苗木について

茨城県林業種苗協同組合

現在、茨城県の海岸防災林の再生には、コンテナクロマツ苗【松くい虫被害を考慮して、松くい虫につよいクロマツ(抵抗性クロマツ)を用いることとし、県林業技術センターで採種した種子使用】が使用され、また、クロマツだけでなく、シイ・タブなど郷土樹種を取り入れた海岸地域の環境に適した多様な樹種の苗木の植栽が進んでおります。このコンテナ苗生産を更に加速させるために、茨城県林業技術センターで開発した、セルトレイで発芽させた稚苗をコンテナへ移植することで、育苗期間の大幅な短縮が期待できる生産方法にシフトしております。当組合でも、この技術を試験的に導入し、概ね規格に適應したコンテナ苗を、従来より短い期間で生産することが出来るようになってきました。

近い将来、このセルトレイを利用する方法が、コンテナ苗生産の主流になる手ごたえを感じています。

しかし、セルトレイ用の培土に市販品を使用すると、セルトレイや培土にかかる費用のため、コンテナ苗の価格を高くしなければなりません。現在の苗木価格でなんとか費用を吸収できないか検討しましたが、現在の利益率ではとても補えません。



1セルトレイの培土

そこで、生産者自らが培土をつくることで、出来るだけコストを下げようと考え、今年の3月中旬に、材料の配合を変えた数種類のセルトレイ用培土

を試作しました。本来は、コンテナ苗生産者が一堂に会して、共同で試験を行う予定でしたが、新型コロナウイルス拡大防止への対応により、各々の生産者が自分の圃場で試験区を設定し、その様子を写真に撮るなどして、情報をメールで共有していくことにしました。

今回試験する各種の手作り培土が、発芽などどの程度影響するかなどを調べ、温度管理を含めた新たな育苗方法の確立にチャレンジしていきたいと思えます。



セルトレイ用培土試験
セルトレイの大きさ 54cm×28cm 288穴

当組合としましても、これからの海岸防災林の再生には、進度や植栽地の環境に適した郷土樹種の苗木需要量を把握し、それに対応できる苗木を生産し、即時提供できる生産体制を整備する必要があると考え、今後も茨城県林業技術センターと連携し、効率的なコンテナ苗木生産が可能となるよう生産技術向上を図ってまいります。

本県の海岸防災林の再生に向け茨城県林業種苗協同組合としてより一層、貢献していきたいと考えておりますので、県及び林業関係団体の皆様のご協力、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

協会だより

1. 令和2年度定時総会の開催

令和2年6月25日に水戸市内において、全会員23名(委任状出席を含む)の出席により、令和2年度定時総会を開催しました。当日は、新型コロナウイルスを感染防止する観点から、出席者を会員のみ限定し、密にならないよう対策を講じた中での開催となりました。

はじめに、豊田稔副会長(北茨城市長)の開会の言葉に続き、大久保太一会長(常陸太田市長)から、「昨年10月に発生した台風19号(東日本台風)により、本県に洪水をはじめ山地災害など甚大な被害をもたらしました。常日頃から災害を防止し、県民の安全・安心を確保して、事前防災・減災に向けた治山対策を着実に進めることが重要であると再認識したところです。また、新たな森林管理システムが導入され、林業の成長産業化と森林資源の適切な管理を実現するため、計画的に路網整備を推進し、林業経営の自立化・集約化に向けて、森林整備を計画的に推進していく必要があると考えております」と挨拶しました。



総会の様子

〈提出議案〉

- 議案第1号 令和元年度貸借対照表並びに損益計算書(正味財産増減計算書)、財産目録について
- 議案第2号 令和2年度会費の賦課及び徴収について
- 議案第3号 令和2年度借入金の最高限度額の決定について
- 議案第4号 令和2年度役員報酬の決定について
- 議案第5号 任期満了に伴う役員の変更について
- 議案第6号 定款の一部変更について

〈報告事項〉

- 1. 令和元年度事業報告について
- 2. 令和2年度事業計画並びに収支予算について
- 3. 公益目的支出計画実施完了報告について

【役員名簿】

役職名	所属	氏名	備考
会長	常陸太田市長	大久保太一	
副会長	北茨城市長	豊田 稔	
理事	桜川市長	大塚 秀喜	
理事	大子町長	高梨 哲彦	
理事	城里町長	上遠野 修	新任
理事	常陸大宮市長	鈴木 定幸	新任
専務理事	事務局	神長 輝夫	新任
監事	鉾田市長	岸田 一夫	
監事	石岡市長	谷島 洋司	新任



挨拶する大久保会長(常陸太田市長)

議案については、議長に大久保会長がなり、議案第1号から第6号まで、原案のとおり可決承認されました。また、報告事項の令和元年度事業報告、令和2年度事業計画並びに収支予算、公益目的支出計画の実施完了報告についても承認されました。

2. 令和元年度茨城県民有林治山・林道関係 コンクールの表彰

◎第42回民有林林道維持管理コンクール

森林の整備、山村の活性化に寄与する林道について、適正な維持管理を推進し、林道機能の保全と通行の安全確保を目的として、県の後援を得てコンクールを実施しました。

入賞路線は、次のとおりです。

○茨城県知事賞（最優秀賞）

路線名：水根持方線

管理者：大子町

○茨城県農林水産部長賞（優秀賞）

路線名：膳部沢線

管理者：常陸大宮市

知事賞を受賞した水根持方線（大子町）は、日本林道協会主催の第42回民有林林道維持管理コンクールにおきましても、林野庁長官賞を受賞しました。



大子町 水根持方線



受賞を囲んで大久保会長（右）と豊田副会長（左）と役員の方々等との記念写真

